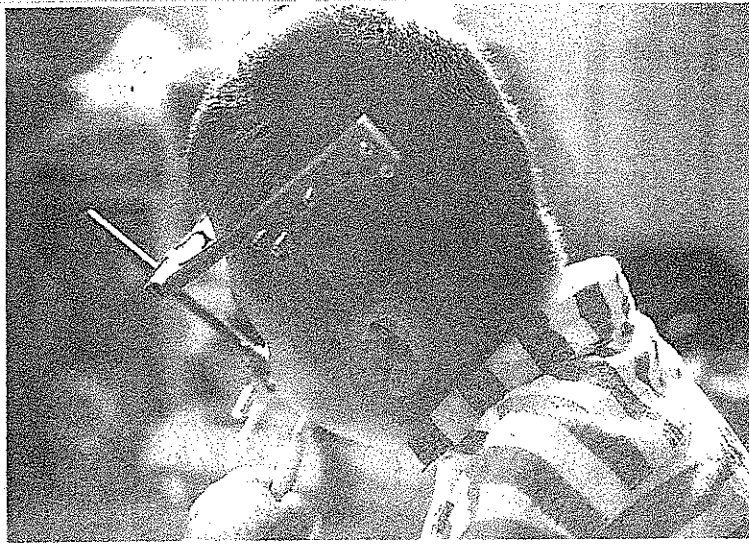


むし歯放置 10本が根だけに

子ども貧困 ④

今年4月、関西地方の歯科医院。3年ぶりに診察する小学3年の男児(9)の口内を見て、医師は「やはりそうなってしまったか」と思った。10本の乳歯が、す



歯磨きする男児。顔には難病治療のための器具が着けられていた—筋野健太撮影

べて根だけになっていった。以前の治療中、母子家庭になったと聞いた。生活苦がうかがわれ、来院しなくなった。

「お金なかった」

「窓口で払うお金がなかった」と母親(36)は振り返る。男児の乳歯は抜くしかなかった。今あるのは永久歯が10本ほど。うち2本はむし歯だ。

母親は4年前に離婚。長女(12)と長男の男児との3人暮らしが始まった。幼稚園に通う長男は難病を抱え、付き添うため母は働けなかった。生活を支えるのは、特別児童扶養手当などの各種手当で月約13万円。長男の通院に車が必要だと思ひ、生活保護はあきらめた。子どもの将来に備えためていた約150万円を取り崩す日々だった。

長男は昔から歯磨きが嫌いでなかなか口を開かず、十分に磨けていなかった。「歯が痛いから、もうご飯はいらない」と食事をやめてしまうこともあった。

小さくなった歯

通院をやめ、歯が小さくなっていくのには気づいていなかった。通院の自己負担は自治体の助成で月500円になるが、窓口でいったん本

来の自己負担額を払わなくてはならない。2、3カ月後に差額が振り込まれるのを待つ余裕がなかった。小学校に進むと、歯科検診後にむし歯の治療勧告が出た。就学援助を受けており、本来なら無料で受診できる医療券がもらえる。だが、制度の説明を受けたり、券をもらったりした記憶がない。お金がないことが恥ずかしく、学校や行政

に相談しようとは思わなかった。うまく食べられない長男のため、肉は細かく切った。豆腐もよく出した。長男はいつの間にかプリンが大好物になっていた。預金が底をついたのは昨夏。おかずが少なくなり、卵焼きだけの日も。長男が熱を出しても病院には行かなかった。

4月、長男を歯科医院に連れていった。長男は「歯を抜くまでは痛いことがあった。今はおいしくご飯を食べられる」と笑う。

突然の動悸とともに不安に襲われるパニック障害を患ってきた母は、生活保護の受給で定期的に通院できるといなり、症状は改善しつつある。自営業の両親がお金に苦労する姿を見て育った。自分の子と同じ思いをさせたくないが、長男の病気を考えると小学校卒業まで働けそうにない。「なるようにしかならない」。そう思っている。

(丑田 滋)

診察機に生活把握を

貧困は子どもの健康を損なう要因にもなる。

歳でむし歯がある割合(処置済みを含む)は2011年で53%。19

明海大学病院(埼玉県)の歯科では約3年前から、むし歯が多数ある子どもが来院した場合、家庭状況について調査している。同大の渡部茂教授(小児歯科)によると、親の離婚に伴う貧困、親の病気、子どもの障害などの状況が多くみられたという。この男児については「むし歯が多い子の典型的な例だ」としたうえで、「むし歯が多いイコール貧困ではないが、家庭の問題に気づききっかけになる」と指摘する。

厚生労働省の調査では、5〜14ト『の予防につながる』と話す。

子どもの貧困についてのご意見をasahi_forum@asahi.comで募集しています。10月中旬に朝日新聞デジタルでアンケートを実施する予定です。



子どもの貧困率 日本、平均上回る

OECD公表

経済協力開発機構(OECD)は13日、加盟34カ国の子どもの貧困率ランキングを公表した。日本は2009年時点の15.7%が用いられ、平均の13.7%を上回り11番目に高かった。厚生労働省が昨年公表した12年時点の数値(16.3%)が用いられたとしても、順位は変わらない。子

どもの貧困率とは、世帯収入をもとに子どもを含む国民1人あたりの可処分所得を試算し、順番に並べた時に真ん中の人の額の半分に満たない18歳未満の人の割合だ。

報告書は11年前後の時点での各国の数値を比較。最も高かったのはイスラエルの28.5%で、最も低いのはデンマークの3.8%だった。ドイツは8.1%、韓国は9.7%と平均を下回り、米国は20.5%で平均を超えた。(伊藤輝虹)